

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170100648		
法人名	有限会社 さとほろ		
事業所名	グループホーム さとほろ 4階		
所在地	札幌市中央区宮の森1条6丁目1番16号—401		
自己評価作成日	令和5年11月1日	評価結果市町村受理日	令和6年3月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170100648-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「ここは家ではないが、そう悪いところではない…」と感じてもらえることを目標に、家庭的で温かな雰囲気を大切に、一人ひとりが持つ出来る力と尊厳を大切に支援している。
・入居者様とスタッフの距離が近く、関わりを大切に日々楽しく笑いあふれるホームであるよう努めている。
・脳トレや体操、各レク活動、家事作業等々、日課の充実と毎月の行事の工夫で、共に楽しく暮らせるよう取り組んでいる。
・食べることは生きること…を意識して、食にこだわり、安全で美味しく楽しく嬉しい食事の提供に努めている。
・個々の身体状況を把握し、医師・看護師・ご家族と連携をとりながら、早期発見・早期対応に努め、日々健康管理に留意し24時間連携体制を整え支援している。
・委員会活動や勉強会、各研修への参加を通して認知症の理解を深め、入居者様の尊厳を守り、職員一人ひとりが人として、介護職員として成長出来るよう取り組んでいる。
・入居者様、ご家族の気持ちを大切に、コロナ禍ではあるが早い段階から面会の再会を実施している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和5年12月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が意見を出し合い、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げ、毎朝の引継ぎ時に理念を唱和、共有し、職員一人ひとりが理念に沿った支援を実践出来るよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため地域のイベントは中止になっているものが多く交流の機会はないも、近隣への散歩や買い物では積極的に挨拶をするよう努め、ホーム周辺の清掃や雪かき等も進んで行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の介護タクシーを活用し、地域の方へ無料で外出支援を行っている。また電話での相談にも真摯に対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第二水曜日に運営推進会議、家族会を開催し、ホーム内の状況を報告、情報交換、意見交換、質問の場とし、報告書を全ご家族へ、職員へは報告書と全体会議で内容を周知しサービス向上につなげられるよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故発生時やコロナ対策時には迅速に報告、相談をしている。その他確認したいこと等については、札幌市のネット情報を活用し、担当者とはメールや電話にて解答や助言をいただいている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を中心に3ヶ月毎の活動、毎朝日常のケアの振り返り、ホーム内勉強会、外部研修やオンライン研修に参加し身体拘束の理解を深めている。禁止の対象となる具体的な行為を意識し、職員一人ひとりが自覚と責任を持ち、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。マンションの玄関はオートロックであるが、各フロアは施錠をせず、離所に気づけるよう玄関ドアに鈴を付け工夫している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内勉強会では虐待や不適切ケア等を学ぶ機会を設け、日常の関りやケアを振り返る機会を持ち、毎朝の委員会活動では、入居者様の小さな変色や傷等から、原因を検討し防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援を基本に、入居者様の心身の状態を共有し、出来る力を継続していける関り支援に努めている。成年後見制度についてはホーム内勉強会で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書や重要事項等でホームの状況を説明しながら、不安や疑問点を尋ね、理解・納得していただけるよう努めている。改定時には運営推進会議や書面での報告等で理解・納得につなげている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には話しやすい雰囲気作りと都度尋ねることに努めている。偶数月の運営推進会議と合わせ家族会を開催し、ケアプランの見直し時に意向や意見を確認し、ご家族様に寄り添った運営をするよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やフロア会議、管理者との面談等で意見や提案を聞く機会を設けている。日常的にも意見を言いやすい関係性作りにも努めている。職員が心身共に余裕を持って働けるような人員配置や有休の利用等、出来る限りの努力はしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境になるよう、代表者は職員個々の努力や実績、勤務状況の把握に努め、改善可能な部分があれば全体会議等で検討し改善するよう取り組み、実績評価を給与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に合わせた採用時研修、現場に於いての実技指導、内部研修では資料の作成と発表の場を通し習得につなげるよう努め、外部研修やオンライン研修では個々の力量や必要なスキルテーマを考慮した参加を促している。資格取得も積極的に勧め職員がステップアップ出来るよう応援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍にて、外部の同業者と直接的な交流は少ないが、オンライン研修での意見交換や情報交換に参加している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	書面情報からもバックグラウンドを知ること努め、ご本人ご家族に尋ね、不自由しそうな点や不安面、要望を汲み取り、それらを解決出来る環境を工夫し、周囲との仲介も行いながら、安心につながる環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至る経緯、困っていること、入居後の不安等も含めご家族の思いをよく聴き、その思いを受け止め、解決方法を一緒に考え、安心して頂けるよう、こまめな報告、連絡、相談にて信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人ご家族の思いや願いをよく知ることに努め、ホームで出来る他のサービスについての説明をし、希望時にはそれらのサービスを受けられるよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として敬うことを忘れずに、認知症の理解を深め、一人の人として向き合い、いつでも思いを伝えられる雰囲気を保ち、入居者本位で暮らせるよう尊厳を大切に寄り添い、出来る力が活かされる支援に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に支えていきたいことを伝え、本人と家族の絆を大切にしている。現在も面会の機会は失くさずに、ご家族との外出やご自宅への外泊も継続して支援し、共に本人を支えていく関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナが緩和されていた時期は、友人知人の面会も行っていたが、現在はご家族のみの面会としている。ご家族との外出、ご自宅への外泊は継続している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの病状や認知度、性格や思い、入居者同士の折り合いや関係性を把握理解共有し、トラブルを回避しストレスを受けないよう仲介に努めている。入居者同士が作業やレク活動を通じて関り、支え合える関係作りの支援に努めているが、認知度の違いにより難しい面もある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居中から良好な関係作りに努め、入院で退去となったご家族へは様子を確認し、必要に応じて相談を受けている。看取りを終え退去されたご家族からは入居を希望されている方の紹介を受けたり、お菓子や必要物品を頂く等、つながりを大切にしながら関係継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、会話など関わることに重点を置いて、言動や表情、ご家族からの助言も合わせ、入居者様の希望や意向を汲み取り、会議で情報交換や検討をして本人本位の暮らしが支援できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に公的機関やご家族から可能な限りの情報を聞き取り、入居後もご本人、ご家族とコミュニケーションを取りながら、新たな情報も職員間で共有し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の心身の状態や新たな気づきは記録や申し送りで共有し、個々の生活リズムの把握と有する力の維持継続、新たな力を発見出来るよう関り、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	可能な方には思いや意向を尋ね、ご家族の意向も確認し、担当職員を中心に毎月のフロア会議で話し合い意見を反映し作成している。意思表示が困難な方は、ご家族の意向をもとに本人の立場になって介護計画の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の書き方を学ぶ機会を設け、ケアプランを基に発言や表情等が見える記録をするように努めている。個別の申し送りにも、心身の状態や気づき、その処置や対応、経過や結果等を細かく分かりやすく記録するよう心掛け、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員の配置を充実させる取り組み、ホームの介護タクシーを活用し、個々のニーズに合わせた対応が出来るよう努めてきたが、職員が持病の治療で休職や高齢での退職等、職員の配置にゆとりがなくなっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため町内や地域のイベントが行われていず、外に出ての関りは持っていないが、感染予防を講じた上で、訪問理美容や訪問歯科、訪問看護と訪問診療、かかりつけ医への受診の継続。行事では仕出し弁当やお寿司を取り、美味しく楽しいひと時を過ごしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の有無を確認し、ホーム連携医療機関を説明の上、希望に合わせて主治医を決めてもらっている。かかりつけ医を継続の場合も、適切な医療が受けられるよう日々の身体状況をご家族へ報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師とは担当職員を中心に個々の状態を情報共有し、日常的な健康管理、様々な症状についての処置や指示を受けて対応している。その情報は全職員が共有出来るようになっている。急変時にも24時間の連絡体制があり、必要な医療が受けられるよう協働し支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には基本情報やアセスメントを提出し、混乱なく安心して治療が受けられるよう病院関係者と情報交換を行っている。入院中も本人の様子、治療経過等の把握に努めている。早期に退院出来るように、受け入れ可能な身体状況、可能な医療体制等をご家族・医療機関へ伝えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアプランの見直し時と毎年11月～12月頃、または状態の変化に伴い、現状と今後考えられる状況、ホームで出来るターミナルケアを説明、意向を確認し書面にて同意を得ている。また、状態に合わせご家族と医師・看護師と話し合いの場を設け方針を確認、全職員がそれを共有し取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	高齢者に起こりやすい病気や急変時の症状、怪我等の対応を学ぶ機会を設け、実際の特変時に指導をしているが、十分な実地訓練までは行えていない。急変時の連絡体制は整え、搬送時に必要な情報等は一つにまとめている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍のため消防や町内会の方の立ち合いは行なえていないが、年二回避難訓練を行い、振り返りや状況の確認、地震・水害時の対応、避難方法についても確認し合っている。マンション内での通報訓練、水消火器使用の訓練を行っている。地域との協力体制については十分とは言えない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会や委員会で学ぶ機会をもち、年長者であり人生の大先輩であることを忘れずに、日頃の関わりの中で注意すべき状況などを共有し振り返り次につなげているが、馴れ合いから配慮に欠ける言動もあると思う。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人をよく知ることに努め、個々に応じたコミュニケーションの工夫、表情や仕草等からも思いを汲み取り、それらを表出できるよう雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調や気分配慮しながら、本人のペースを把握し、一人ひとりの生活スタイルに合わせて個々の時間、共に過ごす時間を組み入れながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	偶数月に訪問理美容を利用している。洗面後の保湿や髭剃り、寒暖やTPOに合わせた身だしなみに気を配り、行事の際にはお化粧やヘアメイクをしておしゃれの支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	二十四節気や毎月の行事、旬の食材、日々の希望を献立に反映させ、職員も一緒に食べ、個々の力量に合わせての準備や片付けを行っている。誕生会のケーキや日常のおやつ、漬物等も一緒に作り、出来る力を活かす支援に努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量と水分量を記録、集計し把握している。体重は毎月月初めに測定している。年2回口腔栄養スクリーニングを行い体重の増減や栄養状態を把握、必要に応じて主治医に相談し、栄養補助食品も活用している。個々の咀嚼力や嚥下力に合わせて食事形態や量を検討し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々の力に合わせて、必要な口腔グッズを活用しながら歯磨き、義歯洗浄、舌のブラッシングを行っている。希望者には毎木曜日に訪問歯科衛生士にて口腔内チェック、清掃、嚥下体操等を受けている。その他適時の定期回診にて口腔内診査、義歯のメンテナンス、必要時の治療を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンやその日の状態を把握、情報を共有し失敗がないよう声掛けやケアを行っている。夜間は居室でPTトイレを使用される方もおり、出来るだけ汚染を少なく出来るよう、個々の状況に合わせたケア、支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を把握しながら、十分な水分摂取と便通を良くする食材、食品を用いての献立、体操や足こぎ、散歩等で身体を動かす機会を作り便秘予防に努めている。高齢に伴い自然排便の難しい方は、医師の指導のもと服薬や坐剤の調整でコントロールしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴表をもとに、その日の体調や気分、外出(受診等)予定等に合わせて、皆が平均的に入浴出来るようにしている。汚染時等も臨機応変に対応出来るように支援している。不調等で入浴が困難な時は、手浴足浴、清拭、ドライシャンプー等で清潔を保てるよう支援している。また楽しい入浴が出来るよう香りや会話にも配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調、年齢、生活リズム等を考慮しながら、温湿度や換気、寝具や衣類、周囲の音や臭い等にも気を配りながら、安心して休息、眠れるよう支援している。短時間の午睡や足腰を伸ばすくつろぎの時間を作る等、個々の体力に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の受診・往診・訪看結果を記録し、処方薬の説明書も確認しやすいようにファイルし職員全員が把握するよう努めている。薬が変わった時には特に注意を払い、必要時には医師・看護師に報告・相談し適切な処方の支援に努めている。服薬は担当職員を決め、複数の職員で確認し介助をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る力を発揮出来るよう、脳トレ、作業、レク活動、会話、趣味や特技を活かせる時間と場の提供に努めている。また個の楽しみ、集団での楽しみを工夫しながら、役割や楽しみごとが自信や励み、喜びにつながることを願い支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で、ご家族と一緒にの外出行事は行なえていないが、天気の良い日に個々の体力に合わせた距離を考えての散歩や季節を楽しめるドライブやイベントへ出掛ける機会を増やし支援している。ご家族の協力を得ながらお盆のお墓参り、自宅への外出や外泊を支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方は、ご家族と相談のうえ所持している。基本、ホーム立て替え後日請求にて対応しているが、買い物時には、金額の計算や支払いの機会を持てるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をかけられるよう支援している。年賀状等、家族や知人に手紙を書く機会を持てるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体が狭く、車いすの方もおり限りはあるが、家庭的な雰囲気大切にしながら清潔を心掛け、入居者と一緒に制作した物や、季節ごとと行事ごとの装飾の工夫と、生け花等で四季を感じ居心地の良い空間となるよう心掛けている。また、その時々に合わせて音楽を流し、都度の換気で温湿度、臭いにも気を付けている。コロナ対策として換気・消毒は重点的に行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間が狭く、車いすを使用している方もいるため制限を受けているが、互いに譲り合いながらテレビを楽しんだり、食卓で談笑している。玄関にベンチを置いて外を見ながら一人になれる空間を作る等、可能な範囲で工夫に努め、食席もその時々状況に合わせて交換する等に対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や装飾品、家族の写真等、ご家族と相談しながら居心地よく過ごせるよう工夫している。PTTイレを使用する方もいるので、消毒・換気には十分配慮し不快のないよう努めている。身体状況等で環境の見直しが必要な時には、本人・ご家族に相談し、危険や混乱のない居室作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	賃貸マンション改築型のホームのため全体が狭く段差もあり車いす使用の方もいて限りはあるが、個々の歩行状態や認知能力等を考慮し、手摺や踏み台の設置、ポップで場所を知らせる、安全な動線を考えて掘り歩きができるよう家具の配置や高さ等の工夫をしている。		